



さとのかぜ NO. 152

千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

1月号 2008年1月1日発行

編集・発行 千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

〒298-0111 千葉県いすみ市万木 2050 番地

TEL 0470-86-5251 FAX 0470-86-5252

URL <http://www.isumi-sato.com/>

明けましておめでとうございます

環境元年

<『もちつきをしよう』より>

新年あけましておめでとうございます。

自然環境保全の重要性が大きく叫ばれている、今日、この頃、当センターも職員一同決意を新たになんばっていきたくと思います。

千葉県いすみ環境と文化のさとセンター長 石井 克己



11月のセンター行事

- ・『つるでかごづくり』第1回(2日)
- ・『もちつきをしよう』(15日)
- ・『おかざりをつくろう』(23日)



《『つるでかごづくり』》

◇「ジャックと豆の木」(つる植物の生き残り戦略)

「ジャックと豆の木」という童話にもあるように、マメ科の植物の中には、クズやノダフジのように進化の過程で、茎の生長を速くすることで太陽のエネルギーをより多く享受して生存競争を勝ち抜く戦略を選択したものがあります。この他には、アケビ科、ツツラフジ科、ブドウ科、マタタビ科、スイカズラ科、ニシキギ科などがあります。

◇捨てる部分のないクズくずは屑くずではない

クズの名前の由来は、奈良県吉野郡の吉野川上流に古代より住んでいた国栖人という大陸から日本に渡って帰化した民族の名によるものとされています。彼等は、クズの根から葛粉くずこを取ったり、茎せんいから繊維を取り出して織物にするなどしてしていたらしく、大陸からの文化をもたらしてくれたと思われます。このようにクズは、その根から取り出されたデンプンくずもちは、葛餅かつこんやくずきりに用いられる他、根は「葛根かけがわ」と呼ばれ漢方薬の原料とされています。また、茎から取り出された繊維は丈夫で、掛川市の「葛布くずふ」は、平安時代の文献にも記されているようです。葛布は、江戸時代には全国的に織られるようになったようですが、掛川でも現在は「壁張り地かべ」や「襖地ふすま」として生産されるに止まっているようです。クズは、ブドウのような香りをもたらす花も「葛花かっか」と呼ばれ、粉末にして二日酔いの薬として、かの水戸光圀公も用いていたそうです。薬効成分は、イソフラボンやサポニンと言われています。その他、葉はアメリカでは「クズ・バイン」と呼ばれて、家畜の飼料として高い評価を得ているとともに、「テネシー河谷開発(TVA)」事業では、クズが土壌保全どじょうや水源確保に重用されダム建設の支えになったそうです。ただし、現在では、その繁殖力はんしょくにより、「世界の侵略的外来種ワースト100しんりゃく」にランクされています。

◇クズのつるでかごづくり

当日は、晴天に恵まれ、まず、図書館に集合してセンター地区周辺に見られる「つる植物」の種類について、実物を提示しながら説明しました。また、つるを採集するときのマナーや留意事項についてお話をしました。その後、午前中は、センター周辺の休耕地でつる(主にクズ)を採集していただきました。午後から講師に、いすみ市在住の尾形信保氏をお迎えし、主として「ざる編み」による「かご」を制作していただきました。



つるは、雨天の場合を考慮して、前もって準備しておいたものも配布して制作にかかりました。まず、「たて芯」として、直径約1cm、長さ約80cmのつるを6本と長さ約50cmのものを1本で計7本用意しました。次に、「編み材」として、直径7.8mm、長さ5.6mのものを使って「根締めねじ」をしてから「ざる編み」に入ります。底の部分ができたら、「たて芯」に手でカーブをつけながら「立ち上げざる編み」をします。胴の部分ふちを編み進んで予め想定した深さに達したところで、「たて芯」を用いて縁づくりをします。なお、取っ手を付ける場合は、編み目に差し込んで仕上げます。クズのつるは、しなやかで折れにくく初心者にとっては、使用しやすい材料と言えます。余力のある参加者は、2～3個と意欲的に作成し、考えていたよりよくできたという感想が多く聞かれました。今年度の2回目は、2月24日（日）に予定していますので、ご参加をお待ちしています。（渡邊美利）

《『もちつきをしよう』》

当センターでは、今年度から『アイガモ農法』を取り入れたイネづくりを1部実施しました。例年月見モチを栽培している水田で実施し、良好な収穫を得ることができました。このモチ米を使用してのもちつきです。当日は、晴天に恵まれ早朝からデイキャンプ場に釜場を準備して湯を沸かし、参加者を迎えました。担当から作業手順や留意事項について話があり、2つの釜にセイロを仕掛け、2つの臼で10臼の餅をつきました。最初の2臼はお供え餅に、次からの6臼はのし餅に、最後の2臼はあん粉、大根下ろし、黄な粉などをつけて、味噌汁をすすりながら皆で試食しました。子供達も小さな杵を使ってついたり、お供え餅を丸めたりすることなどに目を輝かせて参加し、親子共々楽しい1日を過ごせたとの感想でした。終了後は、お供え餅やのし餅を御土産に帰宅となりました。（渡邊美利）



《『おかざりをつくろう』》

例年のように人気のある行事で、午前の部と午後の部に20名ずつが参加して、正月飾りの制作です。形には、いろいろな種類がありますが、今年も「輪注連（わじめ）」を作っていただきました。講師は、いすみ市在住の尾形信保氏です。藁きょうしんは、当センターの水田に栽培して作った京神という品種で、草丈が高く、丈夫で美しいもので、足踏み脱穀機で脱穀してから日陰干しにして保存していたものを用いました。

まず、使用する藁の吟味をしてから、必要な部分を潰します。次に、3束の藁でな縋った三つ子縄を作り、これに先端の3分の1を三つ編みにしたものを3本取り付け、更に、ダイかみして、紙垂等を取り付けて全員が完成しました。（渡邊美利）



新年明けましておめでとうございます。



海岸の初日の出風景(日在浦海岸 1/1)

[海岸の初日の出]

元日の夜明け前に日在一和泉浦海岸中央部、日在瀉水門前の浜辺にはおよそ70-80人が集い、水平線上に低く横たわる雲間から昇ってくる太陽を待ちました。空は晴れ風もなく、新年への期待をこめ、みな笑顔のうちに初日の出を迎えることができました。いすみ市の海岸近くは、近年住宅の建築が盛んで別荘よりも移住の家が多く、初日の出とともに新年の挨拶を交わす人の数が年々増えてきています。

[新春を飾る花々]

当地で新春に見られる花に水仙、菜の花、椿などがあります。毎年歳末に三門の知人から頂く水仙は手入れが十分なため切花が長持ちし部屋中かぐわしい香りで満たされて気持ちよく年頭を過ごしています。日当たりのよい畑では、路地栽培の菜の花が澄み切った冬空のもと黄色の花を咲かせています。椿は種類が多く、まだ蕾が膨らんだままのものに混じり、藪椿の大木が樹冠まで樹の周り一面に花を付けているのに出会います。



手入れ十分な水仙の花 (三門 12/26)



コガモの群れ(日在瀉12/21)

[海岸と入江に集う冬の水鳥たち]

冬の季節となり、ミユビシギ、コガモ、ヒドリガモ、カモメの仲間をしばしば観察しています。冬の代表的な鳥であるミユビシギは、数十羽で群れながら砂浜の渚近くで摂餌したり一斉に飛び立ったりしていますが、単独でも出会います。カモメが海上を移動する姿をしばしば目撃しますが、ユリカモメとセグロカモメが多く、塩田川河口の乾いた砂浜で数百羽規模で羽を休めたり、夷隅川河口

の水面上に数十羽が浮いて憩う姿を見かけます。

入江の水鳥ではコガモは葦に隠れていることが多く、まだ余り啼き声は聞かれません。コガモやヒドリガモは日在瀉や大正堰などで観察しています。この他に、留鳥としてカルガモ、ハクセキレイ、イソヒヨドリ、カワウ、ダイサギ、アオサギなどが見られます。 [森谷 淵 (もりや ふかし)]

◎今、いすみでは???

12月の天候を振り返ってみると、ようやく冬らしくなってきました。それにしても、冬はもっと寒かったのではないのかなと思い、19年の12月の平均気温と最低気温、それに零下になった日数を、過去2年間の12月と比較してみました。

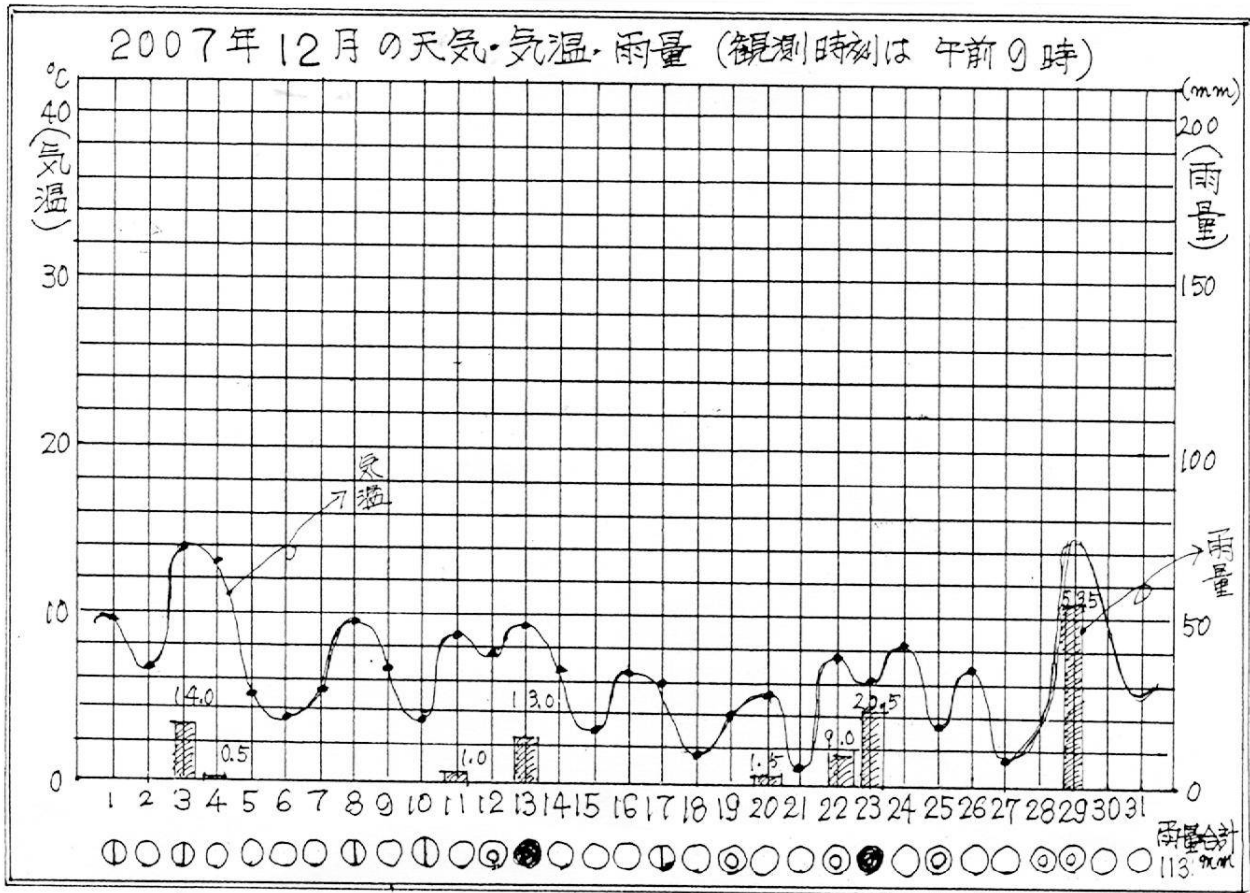
	平成17(2005)年12月	平成18(2006)年12月	平成19(2007)年12月
平均気温	4.2℃	7.0℃	6.5℃
最低気温	-2.0℃	-0.0℃	-1.0℃
零下の日数	22.日	12.日	4.日

これを見ると、平成17年から平成18年にかけての冬の方が、『寒かった』と言えます。

◎白鳥が、また、来ています！！

「2007年12月10日に撮影した。」と言って、いすみ市大原に在住の布留川毅さんが写真を持って、連絡に来てくれました。白鳥は『コハクチョウ』で、その数は『8羽』です。昼は、トンボの沼付近で、採餌、休息、羽づくろいをし、夕方はトンボの沼に帰るという生活をしています。昨年1月には、コハクチョウ1羽、その前年は21羽見られました。

(芝崎昌彦)



1月の行事案内

- ☆『そば打ちをしよう』 定員20名
 日時 1月20日(日) 9:30~14:00
 場所 つどいの家(いすみ市松丸地区)
 参加対象 中学生以上
 集合 ネイチャーセンター
 持ち物 材料費実費負担、割烹着、手ぬぐい
 タオル、ボール、寒くない服装
- ◇『わらぼうりを作ろう』 定員20名
 日時 1月27日(日) 9:30~16:00
 参加対象 小学5年生以上
 場所 ネイチャーセンター
 持ち物 木ばさみ、お弁当、座布団、
 寒くない服装

《2月の行事予定》

- ☆『干潟の鳥たち』 定員20名
 日時 2月3日(日) 8:30~11:30
 場所 夷隅川河口周辺
 (いすみ市岬町和泉地区)
 集合 ネイチャーセンター 8:30
 ◇『つるでかごづくり②』 定員20名
 日時 2月24日(日) 9:30~16:00
 場所 センター地区
 参加対象 高校生以上、
 持ち物 鎌、剪定ばさみ、軍手、長靴、
 山に入れる服装、お弁当

いすみ楊枝

—千葉県伝統的工芸品—

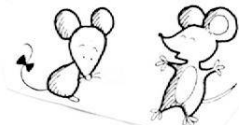
- 日時 1月20日(日) 9:30~16:30
 場所 ネイチャーセンター
 講師 高木 守人氏
 参加料 無料(材料費実費負担)
 内容 楊枝・花入れ・茶杓作り

センターでは、千葉県伝統的工芸に指定されている「いすみ楊枝」を、県内外に広く紹介するために毎月1回、高木守人氏に実演をしていただいております。次回は、2月17日(日)の予定です。

《3月の行事予告》

- ◇『炭焼きに挑戦しよう』 定員20名
 日時 3月1日(土)~2日(日) 蕨3/15~16
 場所 センター地区(1日 9:00~未定)
 集合 ネイチャーセンター(2日13:00~15:00)
 持ち物 軍手、うちわ、懐中電灯、ペット
 ボトル(500ml)、お弁当(昼・夕)
- ☆『春の星座を見てみよう』 定員20名
 日時 3月8日(土) 18:00~20:30
 場所 ネイチャーセンター(雨天順延)
 持ち物 懐中電灯、寒くない服装

※1月4日(金)午前9時から、3月の行事申し込みを受け付けます。



行事への参加申し込み、お問い合わせは、☎(0470-86-5251)または、直接センター事務室にお申し出ください。定員のあるものについては、定員になり次第締め切らせていただきます。あらかじめご了承ください。

*FAX可(0470-86-5252)

*eメール可(メールアドレス: info@isumi-sato.com)

*行事申し込み後、都合によりキャンセルする場合は必ずセンターまでご連絡下さい。

※「さとのかせ」の定期購読を希望される方は、郵送料として、80円切手12枚、または、960円にて受け付けます。

◆ ◆ ◆ ◆ 利用案内 ◆ ◆ ◆ ◆

休館日: 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12月29日~翌年1月3日

開館時間: 9:00~16:30、 入館料: 無料

なお、団体で案内や解説などを希望される場合は、2週間前までにお申し込み下さい。